

「個性の伸長」を主題とする道徳科の事例研究

～自己肯定感に着目した指導と評価の在り方～

A case study of morals with the theme of personality growth

～Guidance and evaluation focusing on self affirmation～

坂口幸恵

1 問題の所在と研究の目的

今やマスク着用は新しい生活様式の日常となった。長引くコロナ禍が人々の生活を変え、誰もが漠然とした不安や悩みを抱えている。生徒たちにとってはなおのことである。先の見通しが不透明で閉塞感の漂う時代にあって、進路選択を間近に控えた生徒たちはどのような将来像を描くことができるのだろうか。進路指導では以前にも増して生徒一人一人への配慮が必要になっている。道徳教育では、自らのよさや生き方をどう捉えさせていくかが問われている。折しも東京都教育庁から、子供たちを支援する教職員が一丸となり、子供たちのありのままの姿を位置づけ、そのよさや努力、成長を見付けるという趣旨で、令和3年10月9日に「学校のすべての子供一人ひとりにエールを送ろう」¹という取組が提言された。学校教育全体でこの取組を推進していく中で道徳科の授業を要に研究を推進していくこととした。

個性を生かす教育は、自分を知り、相手を知ることが出発点となる。自分を知ることによって自己の個性を発見し、その個性を伸ばそうとするのである。人は生まれながらにして個性をもち、それを生かすことによって、一層充実した人生を送ることができる。充実した人生の実現のためには、生徒一人一人が自らの個性を自覚し、伸長する生き方ができるようにしていかなければならない。道徳科においては、「個性の伸長」を主題名として生徒一人一人が自らの個性の認識と伸長の意識化を図っていく学習活動を設定していくことが大切である。

江戸川区でも各学校で様々な個性を生かす学習活動を実践している。S 中学校では、令和3年10月に「私のクラスの自慢できるところ」、令和4年2月に「学年相互のエール交換」という2つの取り組みを実施した。後半の互いのよさを発見する取組では、相互理解が必要であるとともに、自らのよさを認める自己肯定感がなくてはならない。しかし、中学生の時期はともすれば自分への自信を失い、「私なんか必要ない存在ではないか」と否定的な考えをもつ生徒も存在する。このような心情についてリフレーミング²を活用して枠組みや感じ方を変え、生徒一人一人の自己肯定感を高めていくことが大切であると考えた。特に、道徳教育の要としての道徳科の授業で「個性の伸長」を主題名とする授業実践を創意工夫することが肝要であると考えた。

生徒たちは時代の変化の中で、新しい生活様式などを肯定的に受け止め、対応しながらも自らの個性を発揮しながら将来に向けてたくましく生きようと努力している。このような時代に生きる生徒たちに自らの個性の認識と伸長の意識化を図る道徳科の指導と評価の

研究ノート

在り方を追究したいと考え、本主題を設定した。

2 「個性の伸長」についての道徳的価値の研究と分析

道徳科で「個性の伸長」を主題に扱うとき、道徳的価値についての分析が指導の大きな鍵となる。「個性」について学習指導要領の道徳で内容項目に取り上げられるようになったのは、平成元年度からで、中学校指導書道徳編では「個性を伸ばして充実した生き方を求める」とあり、小学校指導書道徳編の高学年のみに「自分の特徴を知って、悪いところを改めよい点を伸ばすようにする」と記されている。さらに平成20年では中学年でも「自分の特徴に気付き、よいところを伸ばす」と記載されるようになった。

松永康史²は「個性の伸長」はパーソナルなもので、対話的な学びには不向きであるという指摘をしている。「個性の伸長」は他の社会慣習を概念とする内容項目(礼儀・基本的な生活習慣・規範意識等)と比較するとパーソナルなものであり、そのパーソナルなものゆえに、相手の個性を考え、議論させることはかなり難しいと受け止める。そこには指導法の創意工夫が不可欠になる。

そこで本研究では、「個性の伸長」については自己の欠点や短所の追求のみに偏ることなく、自分が優れている面の発見に努め、それをさらにのばしていくようにすることに主眼を置くこととした。教科化となった令和元年度でも学習指導要領解説 特別の教科道徳編で「個性を伸ばして充実した生き方を追求する」とあり、かけがえのない自己を肯定的に捉え(自己受容)させるとともに、自己の優れている面などの発見に努め(自己理解)させることが大切であるとしている。

「個性の伸長」は、現行の学習指導要領から小学校低学年でも加わり、「自己の特徴に気付くこと」と記載されている。中学年ではそれに「長所を伸ばすこと」が加わる。高学年ではさらに「自己の特徴を知って」「短所を改め」ることが加わっている。中学生段階では「自分の特徴」が「個性」となり、「個性を伸ばして」という文言になっている。本研究が対象とする中学校での道徳科授業では、内容項目の発達段階についても考慮する必要がある。その際、「特徴」と「個性」について整理しておくことが肝心である。「特徴」は「自分の目立つ点」であり、長所と短所を含むと考える。「個性の伸長」と言った場合は、「自分のよさ」を発揮することであり、長所に重点を置いていると考えられる。そもそも「個性を伸ばす」とはどういうことかを吟味することも必要である。その上で、「伸ばす」対象としての「個性」とは何か、そのことを「考え、議論する」ことが、「自分のよい所」の認識につながるであろうと考えた。そこで本研究では、自尊感情測定尺度(東京都版)「自己評価シート」⁴を活用し、実授業前後の生徒の自己肯定感についての変容を調べることとした。

なお授業実践では、生徒相互の信頼関係を基盤に互いの「よいところ」を見つけ合わせる活動を取り入れ、さらに自己内対話させることで、自分自身のよさを伸ばしていくようにした。その際、松永の「個性の伸長」の内容項目はパーソナルなもので、対話的な学びには不向きであるという指摘に着目した。松永の「個性の伸長」についての捉え方を教材選定、学習指導過程に生かす道徳科の指導と評価の事例研究をすることを通して、生徒の「個性の伸長」を図るようにしたいと考える。

研究ノート

3 道徳科授業の実践

(1) 「個性の伸長」についての教科書教材の分析

はじめに、小学校の「個性の伸長」を主題とする教科書会社8社の58教材の傾向を分析した。その結果、スポーツ選手や漫画家を扱った教材が多く掲載されていることが分かった。教材「明の長所」が2社で掲載されている他には複数掲載の教材はない。掲載人物としては、スポーツ選手は吉田沙保里・内村航平・内川聖一・白井健三・田臥勇太・松岡修造・平野美宇が、漫画家はやなせたかし・長谷川町子・水木しげる・手塚治虫・ちばてつやがおり、小学校段階で「個性の伸長」を考えさせるにはスポーツ選手や漫画家という具体的な人物の生き方から学ばせることがふさわしいと考えられているように受け止められる。58教材中24教材(41%)が、実在した(する)人物の生き方から個性の伸長について考えさせる教材として掲載されている。小学校段階においては、実際にその道で成功した人の具体的な生き方に学び、「個性の伸長」について考え、議論させることの効果が大きいと捉えられる。

次に、中学校の「個性の伸長」を主題とする教科書会社7社の26教材の傾向を分析した。その結果、スポーツ選手を扱った教材が7(27%)掲載されており、小学校と同様に中学校でも「個性の伸長」を扱うにはスポーツ選手を題材とすることがふさわしいと考えられているようである。扱われている選手はイチロー・伊調馨・山内宏志・松井秀喜・国枝慎吾・福本清三であった。中学校段階でも、スポーツの世界で成功した人の生き方に学び、「個性の伸長」について考え、議論することが効果があると受け止める。一方で、無名の等身大の中学生などの生き方や考え方に触れて「個性の伸長」について考え、議論させる効果も大きいのではないかと考えた。登場人物の将来像が明確に描かれていないからこそ、自分事として受け止め、自らの個性について深く考え、よさを生かしていこうとする態度を育むことにつながると考えた。本研究においては後者の、身近な学校生活を描いた教材「がんばれ おまえ」⁵を活用することとした。本教材は作家・重松清に寄せられた10代の悩みや疑問に、「正解」ではなく「このような考え方もあるよ」という姿勢で答えてくれる悩み相談のようなものである。「がんばれ おまえ」は、ある少年が中学時代の暗い自分を捨て、高校入学と同時に「おもしろいやつ」を演じるという内容である。進学と同時に自己変身した少年の生き方を見つめ、考え、議論することを通して、かけがえのない自己を肯定的に捉え(自己受容)、自己の優れた面を発見する(自己理解)の学習活動を指導過程に取り入れることとした。

(2) 主題「個性の伸長」に関わる生徒の意識調査

東京都教職員研修センターの研究「自尊感情に関する研究」よりアンケート調査を実施した。この調査は、江戸川区立S中学校3年B組の生徒34人に、令和4年4月と授業後の6月に実施し、その意識の変容を調べた。教職員センターの調査項目22について4段階で自己評価させ、主題「個性の伸長」に関わる4項目「私は自分のことが好きである」「自分の中には様々な可能性がある」「私には自分のことを理解してくれる人がいる」「自分にはよいところがある」に着目して分析した。その結果、授業前後でそれぞれの項目が、「2.6→2.8」「2.5→2.6」「3.0→3.2」「2.7→3.0」となり、事前調査より授業後の調査の方が自己肯定感に関する意識の向上が見られた。さらに授業後の個別面接では、「道徳科で

研究ノート

個性について考えたり話し合ったりしたことで、自分や友達のよさがより深くわかった」「自分では気付かなかった自分の長所を知ることができた」「誰にでも長所があり、そのよさを伸ばしていくことが大切だと感じた」等の自己肯定感の高まりを表現する言葉が語られた。

(3) 主題名「個性の伸長」についての授業実践

① ねらいと教材

自分の個性を生かして自分らしくよりよく生きるためにはどんなことが大切かを考え、実践しようとする態度を育てる。

教材名 「がんばれ おまえ」 重松 清 光村図書3年

② 学習指導過程

段階	学 習 活 動 ○主な発問◎中心発問 ・生徒の反応	☆指導上の留意点 ※資料・準備物 ◇評価
導 入	1「個性」について考える。 ○「個性」とはどんなものだろうか。 ・自分にしかないもの。 ・長所も短所も個性。 ・その人らしさ。自分らしさ。	☆ねらいとする道徳的価値「個性の伸長」への方向付けをする。 ※長所・短所・自分らしさなどのキーワードカードを準備して着目させる。
展 開	2教材「がんばれ おまえ」を読んで、話し合う。 ○少年は、どうして「放課後にみんなと別れて一人になると、ぐったりと疲れ切ってしまう」のだろうか。 ・いじめられていた暗いやつから逃げたい。 ・自分が好きな女子はおもしろい人が好きらしい。 ・友達に受けようとして、毎日必死に考えている。 ○「がんばれ おれたち」という言葉には、少年のどんな思いが込められているのだろうか。 ・自分は自分。ありのままの自分を丸ごと受け止めよう。 ・自分のよさを見つけ、自分らしく生きていこう。 ◎あなたにはどんな「オレ」や「おまえ」がいるだろう。 ・自分はそうは思わなくても、波風立てた	※教師が範読する。 ☆少年の高校に入学してからの生き方の変化に着目させ、その変化の理由について考えさせ、そうせずにはいられなかった少年の生き方に共感させる。 ☆少年の自分を鼓舞する言葉に着目させ、自分の個性を生かす生き方について、考え、議論させる。 ☆生徒一人一人に自らのよさを見つめさせ、個性を生かそうとする態度を育む。

研究ノート

	<p>くないから、体制に流されてしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛想笑いをして、表面的な付き合いをしてしまいがち。本当は、本音で話したいのに。 <p>3 個性の伸長について、自分の考えをまとめる。</p> <p>○ 自分の長所・短所をもういちど見つめ直してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短所だと思っていたことを、褒められて、そういう見方もあると気付いた。 ・自分のことをわかってくれている友達がいることに気付き、嬉しいと思った。 ・自分を認めてくれる友達に支えられながら、自分の個性を伸ばして頑張っていると思った。 	<p>☆個別に自分の長所・短所を書き出し、グループ学習でリフレーミングさせる。リフレーミングは、物事を違う枠組みで見ること、ここでは短所を長所に言い換える活動をさせる。</p> <p>※ロールプレイングの発言、ワークシートへの記述</p> <p>◇自分の長所・短所について考え、友達の意見を受け止めながら自らの個性を伸ばそうという意欲を高めているか。</p>
<p>終末</p>	<p>4 インドの民話「ひび割れ壺」⁶を紹介する。</p> <p>○本時を振り返り、振り返りシートに記述する。</p>	<p>☆短所を自覚し、それを長所として見ることで、自分らしく前向きに生きていけること、他者の欠点を責めるのではなく互いのよさを認め合うことについて、民話から気付かせたい。</p> <p>※振り返りシート</p> <p>◇個性の伸長について、自分のこととして考えているか。</p>

評価の視点としては、次の3点を挙げた。

- 道徳的価値の理解…人には誰にでもよさがあり、よりよく生きようとしていることを理解し、自らの個性を生かしていくことの大切さに気付いたか。
- 多面的・多角的に考える…他者の考えに触れ、自分や他者のよさを発見し、伸ばしているとする気持ちを深めることができたか。
- 自分の生き方に結びつけて考える…自らの個性について理解し、その個性を生かしていくためにどのように生きていこうとするのかを、自分のこととして考えられたか。

授業観察の観点は次の2点を挙げた。

- 「個性の伸長」について生徒一人一人が自我関与している発言や記述が捉えられたか。
- 展開における発問の構成は、ねらいとする価値へ迫るために適切であったか。

③ 実践授業の記録(展開後段の抜粋)

- 少年は、どうして「放課後にみんなと別れて一人になると、ぐったりと疲れ切って」しまうのだろう。
 - ・自分を作って、違う自分を演じているから疲れるのだと思う。

研究ノート

- ・入学したばかりの高校で「おもしろいやつ」を無理して演じているから。
 - ・なんとしても中学時代の「暗いやつ」から卒業したかった。
 - ・おもしろい人が受け入れられると分かっていたから、高校入学と同時に変身したかった。
 - ・お芝居は疲れるけど、好きな女子のために頑張りたい。
- 「がんばれ オレたち」という言葉には、少年のどんな思いが込められているのだろう。
- ・お芝居でなく、素直な気持ちで自然に過ごしたい。
 - ・いろんなことにクヨクヨして、人の顔色をうかがうのはやめて、自分らしく生きたい。
 - ・いじめられていたころなど思い出さずに、前向きに明るく生きたい。
 - ・おどけてニカッと笑う自分も悪くない。つまらなそうな顔はやめて頑張ろう。
 - ・自分を理解してくれる人を探すよりも、自分を理解してもらおうと努力することが大事だと思った。
 - ・素の自分を知ってもらうために「オレ」が「おまえ」を受け入れることが大切だと思う。
 - ・素の自分を出して、みんながそれを受け止めてくれることが大切だと思う。
- ◎あなたにはどんな「オレ」や「おまえ」がいるだろう。
- ・自分はそうは思わなくてもつい同意してしまう。波風立てたくないし、みんなに合わせていれば楽だから。
 - ・愛想笑いをしてしまっ、表面的な付き合いをついしてしまう。
 - ・友達とはもっと本気で話したいのに、怖がっている自分がある。
 - ・自分のよくないところもプラスに変えられるようにしたい。
 - ・短所を認め、それを良い方向にしていけるように考えていきたい。
- 自分の長所・短所をもう一度見つめ直してみよう。(リフレーミング)
- ・自分では行動が遅いことを欠点だと思っていたが、友達に慎重な行動がとれると認めてもらい、嬉しく感じた。
 - ・なんでもポジティブに捉えられる私は、何か失敗した時に立ち直りも早いと感じた。
 - ・短所だと思っていたことも、褒められると恥ずかしいけれど、悪い気はしない。
 - ・A君は自分をわがままと否定していたが、私から見れば積極的でリーダーシップがあるように見える。見方を変えれば、短所も長所になる。欠点もよさに置き換えることで長所とし、自分の個性を輝かせていきたい。

④ 実践授業の成果と課題

実践授業の成果と課題についてまとめる。まず成果は、次の3点である。

- 個性について登場人物の考え方や生き方から、その人のよさを認め、自らの長所についても見つめさせていく発問構想…登場人物の弱さも含めた長所を、全人格として受け止めさせる発問を行ったことが、生徒の道徳的価値理解に効果的であった。
- リフレーミングの活用…展開後段の発問「自分の長所・短所をもう一度見つめ直してみよう」について自分の考えをワークシートに書き、グループで短所を長所に言い換えるリフレーミング活動を実践した。リフレーミングの活動を通して、「相手の立場に立つ」「相手を理解する」「相手に共感する」ことができ、そこから「自己受容」や「自己理解」へと結びついた。さらに、生徒一人一人が自我関与している発言や記述が多くみられ、「個性の伸長」につながったと考える。

研究ノート

○生徒の発言・記述を「道徳的価値の理解」「多面的・多角的に考える」「自分の生き方に結びつけて考える」の3つの視点に分類して評価…生徒の発言やワークシートの記述を3つの視点に分類・整理することが評価に役立った。

課題としては、次の3点である。

○自らの個性を発見し、生かそうとする教材の開発…本研究では作家・重松清の文を教材とし、考え、議論する道徳授業を展開したが、中学3年の発達段階により適した「個性の伸長」の教材を開発する必要がある。

○「個性の伸長」を主題とする道徳科の効果的な指導と評価の在り方…リフレーミング以外の学習活動の活用とその効果について検証する。

○個性を生かす生き方指導・進路指導との関連を図る…学級活動において「自己の個性を生かした進路の選択」を単元に、生徒自身が、将来どのような職業に就きたいかを考えさせる学習を展開する。個別学習やグループ学習を通して、自分が就きたい職業へのアプローチとして、中学校卒業後の進路がどうあったらよいかを考えさせる学習を行う。

4 研究の成果と課題

本研究では、「個性の伸長を主題とする道徳科の事例研究」を主題に、自己肯定感に着目した指導と評価の在り方について授業実践を行った。

研究の成果は次の2点である。

① 「個性の伸長」についての道徳的価値理解の深まり…個性とは短所を長所に読み替えることも含めて自らのよさと理解し、自らの個性をどのように生かしていくかを自分事として考え、議論することで、道徳的価値理解を深めることができた。

② 自己肯定感に着目した「個性の伸長」についての道徳科評価の実施…振り返りシートで自己評価することに加えて、リフレーミングを他者からの評価として相互評価として取り入れたことが、より深い評価につながった。

課題は、次の1点である。

① 自己肯定感に着目した場合の他の内容項目についての研究の推進…本研究では「個性の伸長」を主題に自己肯定感とのかかわりを捉えて進めたが、他の内容項目についても自己肯定感と関連させた研究を行っていきたい。

今後も、様々な手法を創意工夫し、生徒の道徳性を育む指導と評価の在り方について検討を進めていく考えである。

5 おわりに

本研究では、自己肯定感に着目して「個性の伸長」についての授業実践を進めた。この学びを基盤として、次なるステップとして自らの個性を伸ばしていく生き方を、さらに深く考え、議論していく学習活動の在り方を模索していきたい。本事例研究のように、進路選択を目前に控えた中学3年生では、等身大の生き方から「個性の伸長」について考えさせる教材を取り上げ、自分事として自らの個性を伸ばしていく生き方への態度を育むために、展開後段でリフレーミングを取り入れた学習活動を実践することが、道徳的価値の自覚を深めるために効果的であると考えられる。また、本研究での道徳科の実践を生かして、生

研究ノート

徒一人一人の個性や可能性を伸ばす進路指導の在り方を模索していきたい。

今後も、人格の完成を目指す学校教育の中核を果たすのが道德教育であることを肝に銘じ、先行き不透明な時代に生きる生徒たちに、自らの個性を伸ばしていく生き方を目指していこうとする意欲を高める道德科の実践を積み重ねていく所存である。

参考文献

- ¹東京都教育庁指導部「子供が自らのよさや可能性に気付き、自己肯定感を高める エール・ウィーク」（東京都教育庁指導部、2021年8月）
- ² 山中大輝・砂山渡「リフレーミングを用いた文章表現の置換による印象改善」（人工知能学会 インタラクティブ情報アクセスと可視化マイニング研究会 第26回、2021年3月8日）、p69-76。
- ³ 松永康史『「考え、議論する道德」と対話的な学び（2）』（桜花学園大学保育学部研究紀要 第17号、2018年）、p159-171。
- ⁴ 東京都教職員研修センター「自尊感情や自己肯定感に関する研究」（東京都教職員研修センター紀要11号、2012年）、自尊感情測定尺度(東京都版)「自己評価シート」
- ⁵ 杉中康史、田沼茂紀「きみがいちばんひかるとき」（光村図書、中学3年道德教科書、2021年2月）、p56-58。
- ⁶ 林泰成、貝塚茂樹、柿沼良太「とびだそう未来へ」（教育出版、中学3年道德教科書、2021年2月）、p86-87。